

平成23年(ワ)第1291号,平成24年(ワ)第441号伊方原発運転差止請求事件

原告 須藤 昭 男 外621名

被告 四国電力株式会社

## 準備書面(4)

2012年 12月28日

松山地方裁判所民事第2部 御中

### 原告ら訴訟代理人

弁護士	薦	田	伸	夫
弁護士	東		俊	一
弁護士	高	田	義	之
弁護士	今	川	正	章
弁護士	中	川	創	太
弁護士	中	尾	英	二
弁護士	谷	脇	和	仁
弁護士	山	口	剛	史
弁護士	定	者	吉	人
弁護士	足	立	修	一
弁護士	端	野		真
弁護士	橋	本	貴	司

### 原告ら訴訟復代理人

弁護士	山	本	尚	吾
弁護士	高	丸	雄	介

## イズミット地震と中央構造線

### 第1 イズミット地震(甲30～33)

- 1 トルコの国土を主体とするアナトリアプレートは、北のユーラシアプレートと南のアフリカプレート・アラビアプレートによって、年2～2.5cm西に押し出されている。
- 2 北アナトリア断層系は、総延長約1500kmにも及ぶ超大かつ活動的な活断層であり、歴史時代において、断層帯の大部分の区間が連鎖的に破壊する大地震のサイクルを複数回繰り返してきている。特に1939～1967年の間に、断層系の東から西に向かって6つの大地震が連鎖的に発生してきたことが知られている。そして、1999年には、大地震の発生が懸念されていた同断層系北西部の空白域の一部において、8月17日にイズミット地震が、また、11月12日にはデュズジェ地震が相次いで発生した。これら2つの大地震は、近代的な地震観測網の中で発生しており、多重セグメント地震の実態を解明する上で極めて重要な研究対象であるとされている。
- 3 1999年8月17日午前3時02分(現地時間)、イズミット地震が発生し、トルコ政府の発表では死者1万7127名、負傷者4万3959名とされているが、実際の死者は、行方不明者を合わせて4万5000名、負傷者も4万5000名と推定されている。地震によって、60万人が家を失った。
- 4 震源の深さは17km、地震を起こした断層の延長は150kmで、断層が地表に現れた地震断層は140kmの区間に出現した。甲32の表紙の写真に写った地震断層と人物を対比すれば、いかに巨大な地震断層だったかが一目瞭然である。アルマラ海では3mの津波も観測されている。
- 5 西から順に、ベルセクセグメント、ゲルキックセグメント、ラペターラセグメント、アリフィエセグメント、カラデルセグメント、アクスセグメン

トの6つのセグメントが連動した多重セグメント地震であった。

- 6 右横ずれ断層で、断層のずれは5.7mに及んだとされている(甲30。  
なお、甲32、33では4.9mとされている)。
- 7 マグニチュードは、7.4～7.8とされている。
  - ① 甲33：マグニチュード7.4
  - ② 甲30：マグニチュード7.6
  - ③ 甲31：マグニチュード7.8

## 第2 中央構造線

- 1 中央構造線も複数のセグメントからなり、イズミット地震同様の右横ずれ断層であることが知られているが、地震調査研究推進本部地震調査委員会の「中央構造線断層帯の長期評価について」(甲14)によれば、6つの区間が複数同時に活動する可能性や6つの区間とは異なる区間が活動する可能性もあるとされ、石鎚山脈北縁西部の川上断層から伊予灘の佐田岬北西沖に至る区間が活動すると、マグニチュード8.0程度もしくはそれ以上の地震が発生すると推定されている。
- 2 また、松田時彦「最大地震規模による日本列島の地震分帯図」(甲34)によれば、中央構造線四国断層帯の断層長マグニチュードは8.6とされている。
- 3 被告も断層長さ360km、マグニチュード8.4の規模の地震を検討用地震として基準地震動を設定している模様である。

第3 上記イズミット地震の現実の被害状況からすれば、中央構造線について被告の設定した基準地震動は、余りにも過小に過ぎ、伊方原発が中央構造線の地震に耐えられないことは明白である。

以上